

あす 未来の長生を考える

おだか陽一後援会だより

発行者
おだか陽一後援会
発行責任者：小高信一
長生村岩沼619
TEL・FAX (32) 3949

令和元年 会報
3号

村長報告

① 広島平和記念 式典に参加

すでに新聞報道(八月十日付千葉日報)もされ、十月一日発行の広報ちようせい「村長日記」で報告しましたが、八月五日から七日まで昨年(平成30年)から本村が始めた「中学生広島平和記念式典派遣事業」に、長生中学校三年生男子四名、一年生女子四名、山崎校長、菰田教諭、末吉教育委員会職員、そして私が団長として参加しました。

この事業は、本村の平和都市宣言に基づく平和行政推進の取組として、次世代を担う中学生を広島平和記念式典に派遣し、戦争を知り、核兵器の恐ろしさ、被爆者の苦しみ、戦争の悲惨さを学ぶことにより、命の尊厳や平和の尊さを理解できる生徒の育成を目的とするものです。

一日目、原爆ドームの前でボランティアガイドさんからは、「原爆と普通の爆弾の違いは。」と問われ、「威力の違いかな。」と思いましたが答えは、「普通の爆弾は地面に

落ちて爆発するが、原爆は空中(広島では六百メートル上空)で爆発し、吹き飛ばし、焼きつくし、放射線被害を増大させた。」というものでした。



次に訪れたリニールされた平和記念資料館には、ガイドさんが教えてくれた通りの悲惨な写真や遺品の数々が展示され、どれも目を覆うものばかりでした。むごたらしい火傷、死体の写真、焼けた小さな三輪車に乗っていた子どもはどうなったのか。

二日目は、村内小中学生が折ってくれた四千羽の千羽鶴を奉納し平和式典に参加。七千人で埋めつくされた平和公園は動くのもやっとな。地元小学校六年生男女が読み上げた「平和への誓

い」が素晴らしく、力強く澄んだ声で世界中に届いた気がしました。そして、悲しみの雨が降る中、全員が献花しました。



長生中の生徒たちは非常に熱心で、いたるところでメモを取り、行動も正しく、帰りの新幹線では他のたくさんさんの小中学生が騒ぐ中、メモを読み返すなど感心しました。

これからこの事業を継続し、一人でも多くの中学生が「平和」の尊さを考えてくれることを望みます。



村の実施方針

3～5歳児の保育料	国の方針どおり無償化します。
3～5歳児の給食費	国の方針通り年収360万以下世帯の子どもは給食費を免除とし、それ以外の子どもは食材相当分として5,000円/月を徴収します。 ただし、村の独自軽減により保育料が無償となっていた三人目からの子どもについては給食費も徴収しません。10月から完全給食として実施します。 主食・おやつを含め1食270円に設定、昨年度の給食実施実績から1か月の平均が5,310円となるため、月額を5,000円とします。
0～2歳児の保育料	国の方針どおり住民税非課税世帯の子どもの保育料を無償化します。それ以外の子どもは現在の保育料を維持します。 3歳以上と異なり、保育料に給食費が含まれます。
幼稚園利用料等	国の方針どおり給付等を行います。

② 十月から始まった 「幼児教育、保育 の無償化」

新たな子育て支援として、完全給食を実施します。主食(アイガモ米のご飯)を提供すること、子どもに温かいご飯を提供するとともに、忙しい保護者の負担の軽減